会　　議　　録

会　　議　　名	平成３０年度第３回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事　　務　　局	市民部　コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開　催　日　時	平成３０年１１月１３日（火）１８時３０分～１９時３０分		
開　催　場　所	市立はけの森美術館　多目的講義室		
出　席　委　員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 川﨑京子委員 上原佐世子委員 浜田真二委員 鈴木遵矢委員		
欠　席　委　員	なし		
事　務　局　員	薩摩学芸顧問 コミュニティ文化課文化推進係　　吉川、永井 　同　　はけの森美術館学芸員　鈴木、中村		
傍　聴　の　可　否	可		
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数	０人
会　議　次　第	１　展覧会「ほとけをえがく、そしてうつす　台東区所蔵　法隆寺金堂・敦煌莫高窟壁画模写」観覧 ２　事業実施報告等 ３　意見交換 ４　その他　　次回運営委員会日程調整		
会　議　結　果	別紙のとおり		
会　議　要　旨	別紙のとおり		
提　出　資　料	１ 開催した展覧会・ワークシップ等及び今後の予定 ２ 平成３０年度年間スケジュール		

平成３０年度　第３回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成３０年１１月１３日（火）

【鉄矢会長】　　では、皆様、こんにちは。本日は、ご多忙の中をお集まりいただき、まことにありがとうございます。平成３０年度第３回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開会します。

次第の第１の展覧会の観覧については、皆様に既にごらんいただいたかと思いますので、次の議題から進ませていただきます。まず、配付資料の確認を事務局でお願いします。

【事務局】　　それでは、資料の確認をさせていただきます。まず、「平成３０年度第３回小金井市立はけの森美術館運営協議会」と書かれた本日の次第。そして資料１、資料２、資料３と続きます。資料３はこれまでに開催したワークショップのアンケートの結果で３種類ございます。まず、資料３－１として「はけの森美術館×江戸文化体験事業」、資料３－２として、「アニメーション背景技法で描いてみよう、日本の風景」。資料３－３が「体験ワークショップ―石から絵の具をつくろう」。この３種類ございますか。

それから、前回の会議の会議録の校正依頼、そして、本日ごらんいただいた展覧会のチラシとリーフレットとなっております。

もし不足の資料がある場合は、おっしゃってください。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。ないようなので、次の次第２の事業実施報告等の（１）開催した展覧会・ワークショップ等について、事務局から説明をお願いします。

【中村学芸員】　　では、資料の１から報告させていただきます。

まず「平成２９・３０年度市町村立美術館活性化事業　第１８回共同巡回展」としまして、「絵画で国立公園めぐり―巨匠が描いた日本の自然」を、８月４日から９月１７日まで開催いたしました。これは、既に前回運営協議会の際に展示をごらんいただいているものですが、今、映しているのは、そのときのメインビジュアルです。こちらの展示ですけれども、資料にございますとおり前期と後期の展示総入れかえ制という形をとりまして、前回運協の開催時は前期の展示をごらんいただきました。

こちらの入館者数などを先に報告させていただきます。最終的な入館者数としましては１,７２８人ということで、まずまずの結果となりました。前期と後期で比較しますと、後期のほうが比較的多くなっております。関連企画のほうで詳しく報告いたしますけれども、

後期は、リピーターに対する感謝企画も行っておりまして、好評をいただきました。最初のきっかけとしては、展示物を全部一度に出すことができないというスペース的な問題があって、前期、後期の入れかえ制という形をとらざるを得なかった部分がありました。しかし、最終的に前期と後期で入れかわることで、前期来館者の「後期も来たい」という気持ちにつながって、後期も来てくれるというリピーターの方も一定数いらっしゃいました。

展示替えのスケジュールとしては、館の側としてはなかなか厳しいところもありましたが、来館者にとっては、展示がかわることでどうなるかという興味につながるというような面もあったようです。

つぎにこちらの関連企画について、順に説明させていただきます。最初に、これは前年好評だったので、今年もやろうということになった「雨の日夕立プレゼント」です。こちらの美術館、やはり駅から遠いということがあって、雨の日の来館者がどうしても伸び悩む傾向にあったので、雨の日の来館者に先着順でオリジナルグッズをプレゼントするという企画です。今年は雨の日が去年ほど多くなかったというところもあって、去年ほど開催日がありませんでしたが、最終的に３４人の方がこちらの企画に参加されました。今回も参加者には比較的好評をいただいています。

ただいまスライドで写している、これは開会式の様子です。市長が来て、挨拶をしてくださいまして、また、写真のように館長の挨拶もありました。

次に、ギャラリートークを報告させていただきます。会期通して二回、８月１１日と９月８日にギャラリートークを行いました。これは、前期に１回、後期に１回という形で実施し、それぞれの展示を解説するという形をとりました。前期参加者が２３人、後期参加者が１５人ということで、比較的にぎわいあるギャラリートークになりました。

３番目の関連企画ですけれども、はけの森美術館と江戸文化体験事業のコラボレーション企画としまして、「『江戸写し絵』と絵画でめぐる日本の風景　ちょっと不思議なはけ美の夕べ」という体験ワークショップを開催いたしました。資料の３－１が、こちらの企画に参加した人のアンケート結果です。

こちらは、江戸から続く糸あやつり人形の一座「結城座」の方々を講師としてお招きしまして実施しました。結城座で伝承している写し絵という技法について、実演とレクチャーを交えて紹介した上で、さらに写し絵に使う「種板」を参加者自身が制作しました。それぞれが制作した種板を使って、ストーリー仕立ての上演を行う、そういったワークショップです。暗いところで種板を映して楽しむという性格のものでしたので、時間としては

閉館後の時間を活用しまして、１７時から１９時で行いました。

今、映しているのは、ちょうど参加者の皆さんが種板を制作しているところです。実際の種板は薄いガラスの板を使うそうですけれども、このときは、いきなりガラスに描くのもなかなか大変なので、こういった小さいセロファンを切った、ＯＨＰ用紙を切ったものを活用しました。そこに油性のマジックで参加者が思い思いの絵を描いて、最終的にそれをこういったスクリーンに――実はこの多目的室に設置したんですけれども、スクリーンを設置してもらって、映していくという形をとりました。

映すところは、結城座の皆さんがやってくださっています。また、種板をすべて使ってストーリー仕立てにするところは、講師の結城千恵さんが考えてくれました。結果として参加者がそれぞれつくった思い思いの種板が１つのストーリー仕立てになっています。

こちらの企画には１４人の方が参加されまして、それぞれの感想などは３－１の資料にございます。

次に、４番目ですけれども、「アニメーション背景技法で描いてみよう、日本の風景」という、こちらは絵を描くことを主体にしたワークショップを実施いたしました。これは、今回初めてではなく、今までにも何度かやってきている内容です。アニメーションの背景技法を使って、実際に参加者が絵を描いてみるといったワークショップで非常に好評でして、その内容を国立公園絵画の展示に合わせ、発展的にアレンジをしてもらって実施するという形をとりました。

実は、今までこのワークショップの講師を務めてくれていた牟田いずみさんが、今回新しい講師を紹介してくれまして、講師の方が鮫島潔さんにかわったんですけれども、鮫島さんがこういった形で、三保の松原を描くことを考えて、下絵をつくってきてくれました。この下絵に沿って、アニメーションの技法を使いながら、色をつけていくといったことをやりました。

今写している資料、これは当日鮫島さんが配布してくれた描き方を説明する資料です。見本の絵もあり、それぞれどうやって色を塗っていくかというようなことを細かく書いた、絵つきのオリジナル資料になっています。それに基づいて、参加者がそれぞれ色をつけていくということをやりました。

当日、前から講師をやってくれていた牟田いずみさんもヘルプに来てくれました。実際のところ、鮫島さんと牟田いずみさんと２人講師がいる中で、参加者が色をつけていくという形になり、非常に密接に講師と参加者がやりとりしながら、絵をつくっていくことが

できました。３－２にアンケート結果がありますけれども、参加者にとっては非常に内容が濃くておもしろかったという感想につながっているようです。

国立公園絵画を紹介する展示に関連する制作ワークショップは以上になりますが、ほかに来館者に対しての感謝企画を幾つか実施しております。

１つ目としまして、はけの森美術館と Musashino はけの森カフェの連携企画を行っています。美術館のチケット半券をカフェに持参し提示してもらうと、企画展にちなんだ期間限定特別スイーツが５０円引きになる、カフェの利用をしたレシートを美術館に持ってきて、それを提示してもらうとオリジナルポストカードをプレゼントするという、それぞれでどちらかでサービスが受けられるといった企画です。美術館側では、レシートを提示してポストカードをもらった人が、会期中で合わせて１７人いました。カフェのほうでどのぐらい利用した人がいたかということに関しては、カフェに今、確認中です。

また先ほど先に申しましたけれども、そのほかにリピーター感謝企画をしています。展示が前期、後期の入れかえ制であるために、前期のチケット半券を後期に持参したリピーターには、引きかえで、企画展の招待券をプレゼントするという企画を行いました。つまり、この招待券を使ってそのまま後期会期に入れるという形で、前後期８０点の全ての作品を鑑賞できるといった、リピーターに対する感謝企画をです。後期の会期のうちに招待券を使用した方が２８５人いらしたんですけれども、そのうち１７８人がこのリピーター感謝期間に引きかえた招待券で入館した人であるということで、予想していたよりも多くの方がリピーターとして来てくれて、後期の展示も見てくれるというような形になりました。

国立公園絵画を紹介する展示の報告としましては、以上となります。

【鈴木学芸員】　　２番目として、本日、ご覧いただきましたのが、企画展、「ほとけをえがく、そしてうつす―台東区所蔵　法隆寺金堂・敦煌莫高窟壁画模写」になります。１０月３０日に始まりまして、１２月２２日まで開催いたします。今回は、法隆寺の金堂と敦煌莫高窟の壁画の模写作品を通じて、模写について紹介すると同時に仏教美術の入門編となるような内容の展覧会になっています。今、映しているのは開会式の写真です。

そして、関連企画としまして、１１月１１日に、「体験ワークショップ　石から絵の具をつくろう」を行いました。今回の展覧会が、岩絵の具で描かれているわけですが、岩絵の具の基本的な使い方や特徴を体験して理解し、岩絵の具の感触も楽しんでいただきます。東京藝術大学の林武史先生に講師を務めていただきました。

スライドにありますように、最初に講師が用意した石をハンマーで砕き、出来る限り細かい状態にしていきます。当日用いた石がありますのでご覧いただきたいのですが、こちらの石を砕いて、これぐらいの状態まで砕いて、その後、それを乳鉢に入れて乳棒で粒子の細かい状態になるまですります。用意した石はイタリア、ベルギー、南米、日本とかの花崗岩などの、様々な産地のものでした。本来の日本画では、このような工程でできた顔料を膠で定着させるわけですが、今回のワークショップは時間も限られているということもあり、ウォーターメディウムを定着液として用いました。最後に自分でつくった絵の具で簡単に絵を描いてもらいました。

アンケートからもわかりますように、初めての体験である方が多く、岩絵の具というものがこういうプロセスを経てできることがわかり楽しかったという方が多く、満足後は高かったのではないかと思われます。参加者は、キャンセルなどもありましたが、１１人でした。

今回の展覧会も、来館者の感謝企画としまして、Musashino はけの森カフェと連携しまして、美術館のチケットの半券をカフェに持参していただきますと、企画展にちなんだ限定特別スイーツを５０円引きにさせていただいていいます。今回はハスの実の餡を用いたブッセになります。そして、カフェの利用のレシートを美術館に持参していただいて提示した場合は、美術館ではオリジナルポストカードをプレゼントするという形です。

そのほかの関連企画につきましては、後ほどご説明させていただきますが、現在の展覧会などについては、以上になります。

教育普及事業としましては、まず鑑賞教室が前回の国立公園展から行われています。緑小と第四小、東小に来ていただきました。東小では事前授業を行いました。スライドでは班に分かれてもらっていますが、国立公園展に展示されている作品のカードを数種類用意しました。作品には何が描かれているのか、何色が使われているのか、作品からどういった音が聞こえだろう、などを班のなかで話し合って考えてもらい、作品をひとつ選んでもらいます。それから、各班が、色、かたち、音の３つのヒントを出して、クラスの皆が選んだ作品を言い当てといクイズゲームを行いました。話し合ってもらった時にクイズのヒントを考えてもらったのですが、実際に自分たちの言葉で作品を表現し考えることで、作品をじっくり見ることができ、またゲームを通じて楽しく作品に触れることができました。さらに事前授業を経て、鑑賞教室に来ていただきますと、作品により深く関心をもつことができ、作品を熱心に鑑賞していただけたのではないか、と思います。

そして、職場体験学習が１１月６日から８日までありました。1日目は、当美術館の説明や学芸員の仕事について、また博物館法などの解説をした後、現在開催している展覧会の監視や受付の体験をしていただきました。2日目は、附属喫茶棟のご協力をいただき、ホールの体験とか、コーヒーの入れ方など、カフェの職業の体験をしていただきました。3日目は、美術作品の取り扱いや、作品の調書のとり方、作品どのように言葉であらわすのかというディスクリプションなど、学芸員の仕事の体験をしていただきました。3日間を通じて、これまで知らなかった美術館の仕事を体験できたものと思われます。

そして､現在､行っているカフェとの相互サービスのメニューはこちらになりますので、ごらんください。

現在開催している展覧会やワークショップなどの報告については、以上になります。

【鉄矢会長】　ありがとうございました。何か質問、ご意見等ありましたらお願いします。

ウォーターメディウムって、あまり知らないんですけれども、ここの中で、岩絵の具の感触を楽しみながら水彩画を体験していただくと書いてあったんですけど、岩絵の具を使っていても、水彩画と言うんですか。

【鈴木学芸員】　一応そのようなかたちです。

【鉄矢会長】　岩絵の具を使った水彩画って、初めて聞いて。

【鈴木学芸員】　膠を用いて本格的に行うべきところでしたが、講師の先生とも話し合い時間の制約上難しいということもあり、透明水彩メディウムを使いましたので。

【鉄矢会長】　いや、私が言っているのは、水彩画という言葉が、水に溶けるものを使うのかという。

【鈴木学芸員】　そうですね。実際には水にも使いながらいろいろ試していただくという形にいたしました。

【薩摩学芸顧問】　この成分は何が入っていますか。

【中村学芸員】　絵の具自体が溶けているわけではなく、水に溶けた媒介によって絵の具が紙に固着する。

【鈴木学芸員】　そうです。固着するということですね。

【鉄矢会長】　固着するものですね。

【鈴木学芸員】　そうです。

【鉄矢会長】　だから、水彩画というのが適切なのかなと思ったので。

【鈴木学芸員】　　水彩画という言い方が適切なのかというところはありましたが、講師の先生とも話し合い、今回はそのような表記にしておくけれども、今後は検討しようということになりました。

【山村委員】　　これは、アラビアゴム。

【鉄矢会長】　　アラビアゴムです。

【鈴木学芸員】　　そうですね。

【中村学芸員】　　でも、それ自体は水で伸ばせるので。媒体としては水なんですね。

【鈴木学芸員】　　なので、そのような言い方に留めました。厳密には日本画と表記できないだろうと。

【鉄矢会長】　　日本画とは言わないのでしょうけどね。

【鈴木学芸員】　　そうですね。

【山村委員】　　アラビアゴムなら、水彩と同じ。

【鈴木学芸員】　　そうです。

【薩摩学芸顧問】　　アラビアゴムは、たしかアカシアの木だっけ。

【山村委員】　　あと、技法なんですけど、敦煌のほうが早いのかな、同じぐらいかな。７世紀ぐらい。

【中村学芸員】　　基本的に今回の展示は初唐期の作品の模写が比較的多いので、そういった意味では、ちょっと敦煌のほうが早いかもしれないですね。法隆寺よりは。

【山村委員】　　なるほど。それをまた藝大の、ちょうど私と同じ世代で、彼らが大学院のときに模写したんだけど、武井好之とか新井政明だとか。

【鈴木学芸員】　　この間、いらしていただきました。

【山村委員】　　そうですか。彼らは、それを技法的にはどういう技法を使って模写したの？

【中村学芸員】　　これは現状の再現模写ですので、おそらく技法的には、もうほんとうに逐一手で写していくというやり方ですね。

【山村委員】　　それは、日本画の技法で写したの。いわゆる膠を使って。

【中村学芸員】　　そうですね。膠を使って描かれています。支持体としては和紙が使われていますので、紙の上に顔料、つまり岩絵の具を膠を使って描いていくという形をとっているかと思います。

【山村委員】　　なるほど。その辺、ややこしいですね。実際の敦煌とか法隆寺がどうい

う技法で描かれていて、この模写がどういう技法で描かれていてということも一応踏まえて、こういうワークショップをやったという感じなんですか。

【鈴木学芸員】　　そうですね。

【山村委員】　　岩絵の具はみんな同じか。岩石を砕いて。

【鈴木学芸員】　　そうですね。今回の展覧会は入門編のような形なので、岩絵の具について学ぶ機会になればいいなと思いましたので、このようなワークショップを行いました。

【鉄矢会長】　　あと、模写を見なれてない私としては、藝大の模写を初めて見たときに、忘れられないぐらい、どっちが本物という。えっ、これ、写したのという、変な言い方で言うと、まじ、ほんとにこれ写したのというぐらいに、背景まで全部丁寧に写していたりするところが、普通に見た人が伝わるのかなって。２つ並んでいると、へえーってわかるんですけど、単品で模写されたものだけを見ているので、ふうんって。そこが悔しい気がしましたが。

【中村学芸員】　　現物があるといいことはいいのですが、敦煌も法隆寺も、現物を持ってくるのが難しいので。

【鉄矢会長】　　へえーって、あの模写の感動はすごいんですよ、ほんとうに。これ、横に描いてあるのは、布が張ってあるのかなと思ったら、布じゃなくて、全部描いているとかね。何か不思議なことをやっている人たちだな。

【中村学芸員】　　法隆寺はもう燃えちゃっていて、壁画はかなり焦げちゃっているそうですので。敦煌のほうも、敦煌から剝がして持ってくるわけにいかないですし。

【山村委員】　　行ったことがある人もいるんでしょうね。

【鈴木学芸員】　　実際に敦煌に行ったというお客様もいらっしゃいました。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。

【川﨑委員】　　今回の展示についてなんですけれども、日本画とか仏教絵画の知識があまりない立場で見たときに、どういう技法とか画材を使ってもともとのものは描かれたのか。それをどうやって、全く同じような手法で模写をしたものなのかとか、もう少し詳しい世界観とか技法について多少説明があると、もう少し一つ一つの絵に関心が持てたかなと思ったんですけど。やっぱり見ただけだと、模写なんだなという感想しかちょっと持てなかったというか。もう少し興味を持って、隅々絵を見たいなと思ったときに、やっぱりもう少し情報があるとありがたかったかなとは思いました。

【山村委員】　　工夫して、何かこういうパンフレットをつくって、ポイントポイントで解説はしているので。今、全部読んでないんですけど、そういうことが書いてあるんだろうと思っているんですけど。

【中村学芸員】　　今回、やはりフォーカスすべきポイントは幾つかあったと思います。技法のことだとか、模写ってどういうことかということであるとか、仏教絵画ってどういうものかということであるとか。目を向けていく、掘り起こしていくポイントはいっぱいあったと思うんですけれども、その中で、どれを選んでいくか。これを全部一つの展示に入れてしまうとパンクしてしまうので、どう絞っていくかというところで、今回のリーフレットとしては、特に浄土描写と、模写ってどういうふうにやるのか、どういう意味があるのかという2点に着眼しています。

そういった意味では、技法的な部分を入れ込むのは模写のところで、スペース的な問題で難しかった面もあります。今回の展示に関しては、タイトルにもあるように「うつすと描く」ということで、模写と仏を描く、浄土を描くところに特化した。どうを絞っていくかというところはなかなか難しい、今後も考えていくところかなと思います。

【山村委員】　　デザインは、前の国立公園よりはるかにいいなと思う。読みやすいしね。

【中村学芸員】　　今回はデザイナーの人にリーフレットも、どういうふうにデザインするかというところをポスターチラシなどと一貫して考えてもらってやっているので、そういった意味では、前回のリーフレットに比べると統一感もありますね。

【山村委員】　　この工夫がね。

【鈴木学芸員】　　展示構成も含め、デザイナーの方と議論を重ねて決めましたので。

【山村委員】　　すごい読みやすかったです。

【鉄矢会長】　　私は、縦書きで、右、左、左右に揺れて、こっちだよなと思って読みながら。あれは難しいところですね。縦書きじゃないとね。

【鈴木学芸員】　　そこは、気になるところだなと思いますが、今回は全体と調和するデザインとしました

【鉄矢会長】　　あとは、やっぱり模写というと、何かランクが下がるように聞こえちゃうところが、別にランクが下がるんじゃなくて、ほんとうに描き切っているもので、価値あるものだという感じが出てくるといいなと思っていますというのと、質問なんですけど、これほんとうに見えてきて、藝大が研究している内容として、これ、こうだ、ああだというレポートって、実は模写した人が引っ張り出して、メモったんですか。

【中村学芸員】　　見えてきたポイントでしょうか。

【鉄矢会長】　　描く、写すことで見えてくることとはといって、実際に研究者で、絵を研究している人はずっと見るけど、描いている人というのは、描きながらいろんなことを気づいていて、それをメモしたり、何かしていたのが、そういうふうにフィードバックされて、藝大に、コレクションの中の模写と一緒にメモがあるのかなとか。

【中村学芸員】　　藝大のほうでも、おそらくそういった記録はとっていらっしゃると思います。敦煌莫高窟の模写の作品は、台東区のオンラインギャラリー、ネット上で公開されているんですけれども、そこに作者の言葉が一部掲載されておりますので。ただ、「やっていて必死だったので、そんなに覚えてない」とか、そういうのもあるんですが、そういったものが出ているということは、少なくとも記録としてとられているということだと思います。

【鉄矢会長】　　見えてくるんだろうなと思って。発見がいっぱいあったら……。

【山村委員】　　今回のこのポイントについては、誰が考えたの。

【鈴木学芸員】　　こちらの美術館のほうで、２人で編集して書きました。

【山村委員】　　それはもう、じゃ、今回の取材の中で、ここがというところを選んだのね。

【中村学芸員】　　そうです。今回、こちらとしてはどこを掘り下げるポイントにしたいかというところで、仏の世界を描いているというところと、模写をするということって、どういう意味があるのかというところを掘り下げていきたいということになりまして、２人で分担して書いております。

【山村委員】　　中村研一の部屋も、中村研一が描いた仏像、石窟の模写とか、あるいはいろんなテーマ、シンボルをテーマにしたとか。よく考え、連関させようという感じでよかったと思いますけれども。

【上原委員】　　単純な質問なんですけれども、敦煌の壁画の模写ですよね。藝大の方は、そこへ行かれたんですか。

【薩摩学芸顧問】　　今は写真のようなものを使って随分できるのですけれども。多分、全員かどうかはわかりませんけれども、一度は行っていると思います。あそこは……。

【鉄矢会長】　　平山郁夫さんの庭ですから。

【鈴木学芸員】　　平山先生の庭です。

【薩摩学芸顧問】　　平山先生の庭みたいなところですので。藝大が行くと、下にも置か

ぬもてなしになるんですよ。

【山村委員】　あのころはまだ平山郁夫先生、お元気でいらっしゃって、よく集団で中国へ行っていましたよね。今は行かないのかな。どうなんだろう。

【薩摩学芸顧問】　今はもうこちらの模写をやらなくなって、あの後は源氏物語を全部やって、今、伴大納言をやっています。

【山村委員】　絵巻物としては、１２世紀ぐらい……。

【鉄矢会長】　荒井先生が入っているんですか。

【薩摩学芸顧問】　いや、文化財保存ではないです。日本画のほうです。

【鉄矢会長】　日本画のほうでやっているんですか。

【薩摩学芸顧問】　ええ。

【山村委員】　絵巻物のほうは、滅多に見られないからね。

【薩摩学芸顧問】　言っては悪いけど、あんまり……。

【鉄矢会長】　やめたほうがいいです。今はやめたほうがいいです。

【山村委員】　現物をもとに模写するのが一番いいんですけど、なかなかそうはいかない。

【上原委員】　そうですよね。

【鉄矢会長】　多分、水で溶いたり、水が乾くと色が変わるという画材はいっぱいあるので、えらい勇気が要ると思いますよ、ほんとうに。

【薩摩学芸顧問】　現物を前にするのは。だから、色合わせだけですね。ある程度描いてから、この色でいいのかどうかという。

【山村委員】　２年前にブリューゲルの「バベルの塔」の展覧会で、ロッテルダムのボイマンス美術館から「バベルの塔」を持ってきたときに、藝大の COI 拠点で模写したんですけど、それもやっぱり写真をもとにして描いて、色合わせで現地に行って、ここの色はこれでいいかとかというのを全部細かくやって、その色に合わせて修正するという、その繰り返しですよね。

【上原委員】　ありがとうございます。

【鉄矢会長】　参考情報として、学芸大の附属小金井中学校に、こういう仏関係が強かった美術の先生がやっていたのが、なりきり仏像というのをやっていました。布とか、いろいろなものを持って、子どもたちに仏像になり切るということをやって、実はこういう水描きの話とか、いろいろなことを理解させて、それから修学旅行へ行くという。修学旅

行へ行く前の事前授業の中で。実はこれって、すごくおもしろがってやると、子どもたちに印象が出て、子どもたちが実際に仏像とか仏の図を見て、現地で発見できるという。

【山村委員】　　高級ですね。大学生か。

【鉄矢会長】　　大学生じゃなくて、中学生。

【山村委員】　　それはすごい。藝大の古美研もあるよね。

【薩摩学芸顧問】　　あそこはたくさんあるよね。

【鈴木学芸員】　　髪形とかもやって。

【薩摩学芸顧問】　　いろんな衣装があって。もう髪形から全部。

【山村委員】　　日本人てほんとうに仏像の顔しているんですね。（笑）その時よくわかりました。

【鉄矢会長】　　余談が入りましたけど、ありがとうございます。

　では、次に（２）の今後の開催予定の展覧会、ワークショップについて、事務局から説明をお願いします。

【鈴木学芸員】　　まず、展覧会としましては、現在開催している企画展のイベントとしまして、１２月１日の土曜日は、小金井市市制の６０周年を記念して、展覧会の観覧料が無料になるという無料観覧日を設けます。次に、ギャラリートークを行います。これまでのギャラリートークとは違い、今回は、模写と仏それぞれについて、１１月２４日と１２月１５日に、解説します。さらに、親子向けのイベント「模写ってあそぼう！」を行います。対象は５歳以上で、展示作品を鑑賞してから、好きな絵本の好きな絵を模写して、楽しく遊ぶという内容です。これは、「こごうちぶんこ　ことりのへや」にご協力いただきますが、仏像に関する絵本などを用いつつ創作も行い、模写について楽しく学む内容を企画しています。

　教育普及としまして、１１月２７日から１２月１８日まで、鑑賞教室を行います。そして、事前授業を前原小学校で行う予定です。もう１校、事前授業の希望がありまして、現在日程を調整しています。

　今後開催予定の展覧会、ワークショップなどについては、以上になります。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。何か質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

　では、３番目、意見交換について。皆様から何かご意見ありましたら、よろしくお願いします。大丈夫ですか。

【浜田委員】　　一言お礼をお願いします。教育委員会として、教育普及事業に関して、全部の小学校をやっていただいて、そして、中学校の職場体験、これ、大変意義のある活動じゃないかなと、先ほどの話を聞いていましても、大変ありがとうございます。事前授業なんですけれども、それによって、実際に来たときに大変興味深く見ていたということなので、これもできるだけ多くやっていただけたらありがたいなと思いますが、これは、あくまでも希望には全部応えられる感じなんですか。

【中村学芸員】　　そうですね。実は前年度の終わりごろに一度、こちらで次年度の鑑賞教室の日程を、大まかに先生たちの希望を取りまとめて調整しているんです。そのときに、事前授業をしたいというような希望があった学校に関しては、できるだけ対応するようにしようと、そういう形でやってきているところです。

ただ、少し問題もありまして、どうしてもスケジュール的に、新年度４月に一から準備すると、間に合わないんですね。それで、前年度にスケジュールを大まかに決めたり調整するんですが、そうすると、４月に先生のほうが異動しちゃう場合があるんです。そうすると、そこから設定がまた戻ってしまう。そういったところで、なかなかこちらのスケジュールと先生たちの学期の分け方がうまく一致しないところもあって、何とかやってきているところです。

また事前授業としては、今年度は３校、おそらくこの後実施する形になると思いますけれども、２人で回しているので、やはりこれで全ての学校が事前授業を希望されると、２人だとパンクしてしまうと思います。小学校のほうに、こちらとして積極的に事前授業がやれますよと言いたい反面、かといって、全部の学校が来てしまうと対応できなくなってしまうという、結構ジレンマがあるところでして、そこで、３校ぐらいならば、今まで何とかなるだろうと運に任せてやってきてはいるところなんですけれども。毎年毎年その部分は難しいですね。

【浜田委員】　　今後ともよろしくお願いいたします。

【鉄矢会長】　　質問かご意見ありますでしょうか。

【山村委員】　　お聞きいたしますけれども、前から言っている、デザインは、今回すごくよくなったんですけれども、ホームページのほうとかも、市のホームページの中の一つという形ではあったんですけれども、独立するとか、ちょっとデザインをかっこよくするとか、そういうような動きはあるのかということを、すごく今回よかったので、お聞きしたいんですけど。

【鈴木委員（館長）】　　じゃ、私のほうから。美術館の独自のホームページというのは、議会のほうからも声があるところで、実現できるかどうかはあれなんですけれども、現時点で予算編成の時期なんですね。担当としては何らか予算要求をしているところですので、立ち上げたいなと思っているんですけれども、役所全体の財政状況とかを踏まえて、言い方は悪いですけど、削減されてしまって、なくなってしまう可能性もございます。何とか確保していきたいなというのは思っているところです。仮に独自のページは無理というのが、３１年度なった場合に、市のホームページの下のほうにあるやつを、いかに見やすくするかというのは検討していきたいと思っています。

【山村委員】　　例えばツイッターとかフェイスブックだとか、そういう展開もやはり市の全体の広報の中の一つという感じで。

【鈴木委員（館長）】　　そうです。ただ、フェイスブックについては、現時点で市の公式なフェイスブックは特にまだできていない状況なんですね。それから、ツイッターも、美術館でツイッターというのを考えたこともあるんですが、市の公式のツイッターがありまして、そちらを使うとなっちゃっている事情が、今のところございます。広報については、引き続き広くいろんな方に触れるというか、見える機会をつくっていきたいなとは思っております。

【山村委員】　　アンケートを拝見しても、やっぱり市報を通じてとか、口コミでとか、すごくそういうメディアが有効だなというのはよくわかりました。地域密着なので。であれば、ホームページとか、ツイッターとか、フェイスブックとか、わりと力を持つんじゃないかな。規模的にもね。かねがね思っていますので、どんな形でも結構なんですが、ぜひ前向きによろしくお願いします。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。そのほか、ございますでしょうか。

　フェイスブックのサポーター会員とか、ツイッターのサポーター会員とか、何か外部力を使って、もともと美術館の友の会をつくるとか、そういう話ではなく、ちょっと来てくれる方に、そういうふうにメンバーになってもらって、その人の個人の目で、チェックが入らなくて、情報を出してもらうとか、何かあるといいかなと。フェイスブックとかを始めると、多分学芸員は嫌になっちゃうぐらい、疲れたり、バッシングがあったり、いろんなのに対応するのにへこむのもあるような気がするので、予算も増えないのに、それだけ仕事が増えるのは何かうまくないなと。これ以上仕事が増えないで、何か楽しくできるようにするための技法を何か工夫しないと。

【事務局】　　とりあえず今、ホームページ、見積もりをもらっているのは、枠組みを大枠、とにかくここの単独のホームページを、まず、ウェブの会社につくってもらう。当館から情報を変えていけるように、例えば今回のワークショップみたいに、２日前だけど、あと３人あきがあるよみたいなことをどんどん流していけるような、そういうわりと単純なつくりでやれないかなということで、今、見積もりをとっているんですが、今、館長が言ったとおりに、今後どうなるのか、予算の問題なので。あと、うちの市としての情報発信のポリシーがちょっとおくれているので、そこがどうなるのかなというのが難しいところなんですが、あまりすごく複雑なことはやらないで、とにかくワークショップとかも、この間、中村が言いましたけど、今、モミジがきれいですから、ぜひ来てくださいみたいな。

【山村委員】　　木が大きいですよね、あれはね。

【事務局】　　そういうような、こちらから、ある程度情報発信できるような方法ができないかということで模索はしております。

【鉄矢会長】　　はけの森美術館のこきんちゃんじゃないけど、こたろうみたいなのをつくって、その子がしゃべる、責任をちょっと回避するような発信の仕方とか、きれいだよとか、そういうのを、２人で遊び心でやるとかいうなら、一つあるような気もするんですよね。多分、小金井市のポリシー、変わらないような気がするんですよ、情報発信ポリシーは。そこを、抜け道をつくっていくような格好で、これは違うんですよというのと、あとは学芸員に、何かあったときに責任追及するような格好じゃない格好で、これはそういう意味じゃなくて、盛り上げるための何かですからというぐらいの格好の気楽さがないと、一々また、館長、これ上げていいですかという話を聞くことになるので。

【事務局】　　それをやっているので、今、すぐに情報発信ができないんですよね。ものすごい何段階もあって、確認、確認とったあげくに出すから、すぐのができないので、市のホームページから分離してしまえば、セキュリティーの問題は回避できるかなと思っているんですけど、この間のヒアリングのときにはいろいろ問題が出てきたので。

【山村委員】　　だから、学芸員の常勤化というもう一つの課題とリンクしているんだということはよくわかっているんですけど、なかなか困難だということはよく承知の上なんですが。

【事務局】　　ちょっとずつは頑張ってはいるんですけれども、なかなか前に進めません。

【鉄矢会長】　　はけの森に住んでいるコロボックルがしゃべっているような。

【山村委員】　　レストランと自然とね、リアルタイムで情報発信すると、もっともっと増えるような気がするんですけど。

【鉄矢会長】　　それこそレストランにちょっと外注かけて、発信してねという外注。月３回はミッションだよというぐらいにやるぐらいね。

【事務局】　　多分、展覧会やっていますよ、今回のメニューはこんなんですみたいのは出してくれているんですよね。多分向こうのほうがホームページを見てもらえていると思うので。

【鉄矢会長】　　いろんな工夫を。リクエストが出たということで。

　では、ほかにご意見なければ、４番目のその他、次回日程調整等に入りたいと思います。

　まず、日程調整ですが、その前に、次回の会議録の校正について、事務局からお願いします。今度はいつまで。

【事務局】　　今度は１２月１４日の金曜日まで、前回の会議録の案についてチェックをしていただいて、修正等ありましたら、１２月１４日までにコミュニティ文化課にご連絡いただければと思います。

【鉄矢会長】　　よろしくお願いします。

　続いて、次回の運営協議会の日程ですけれども、議会も含めて、どこかご提案ありますでしょうか。

～調整～

【鉄矢会長】　　では、２月１３日、１８時３０分からということで、よろしくお願いします。

　ほかにありますでしょうか。

【事務局】　　すみません、最後になりましたけれども、さっき、前に進みませんと言いましたけど、１個だけ、すばらしく前に進んだものがございまして、茶室と、今、喫茶棟に使っています研一の旧宅が、登録有形文化財の登録がどうやらされそうですということで。

【鉄矢会長】　　申請したんだ。

【事務局】　　申請しました。これは、私がもう８年間言い続けていたんですけれども、当館は首長部局なので、首長部局からは申請が出せないんですね。教育委員会からしか申請できないので、生涯学習課に去年から頑張っていただきまして、６月８日に申請を出しまして、審査をして、今回、その中に入りました。報道発表が１１月１６日なので、それ

まではちょっと皆様、内密にしてくださいということで、ご承知おきくださいませ。それで、一応、審議を経て答申を行いましたという報道発表ですので、この後、官報告示がないと、実際、本当に登録有形文化財にはなれないんですけれども、その告示が出た時点で、公開するような形にしたいと思うんですが、ご存じのように、茶室はぼろぼろですので、あの状態ではちょっとお見せできないので、館長の意見もありまして、日を決めて、現状をお見せするというような日を何日か決めて、あと、学芸員と文化財係の学芸員のトークなども交えた何か、次の展覧会とも絡めたイベントをやろうかなとは思っております。

茶室の運用の方法なんですけれども、次回以降、運協の中でもちょっともんでいただいて、どういう使い方が一番いいのかということをお話し合いしていただければと思っておりますので、その点につきましてもよろしくお願い申し上げます。

【山村委員】　修復計画とかは、まだ。

【事務局】　一応修復は、来年度予算を計上はしているんですね。佐藤秀工務店に、今、見積もりに来てくださいとお願いはしているんですけれども、三鷹のほうで文化財の修復をやっている為に、忙しいから来られないと言っているので、平成２４年に見積もりをもらっているんですね。現在平成３０年、６年たっちゃっているので、そのときの倍額ぐらいの金額で、予算要求はしているんですけれども、どういうふうになるのかというところはわからないんですが、とにかく修復しないと、話にはならないので、茶室のほうは修復を待ってという形になりますけれども、実際もう、喫茶のほう、旧宅のほうは使えているので、そちらとあわせてというような感じで、話が持っていけたらいいなと思います。

【鉄矢会長】　登録文化財と６０周年とを合わせて、誰か市の職員でクラウドファンディング、うまい人いないんですかね。クラウドファンディングの話題としては、お茶はやりたい人いっぱいいるし、どうせ借りられるよといって、借りる券を、月１回使えるよ券とか、いろいろ出せるんだと思うんですよ。

【事務局】　ただ、あまりそういうふうにしてしまうと、拙速にそれをやると、多分ものすごい変なことになると思うので。

【鉄矢会長】　でも、それ、３回までで終わっちゃうわけじゃないですか。３回利用しかできない利用というの。だから、そこまででやるとか。最後に、成立しなくても、自分たちの予算をぶち込めばいいんですもんね。

【薩摩学芸顧問】　クラウドファンディングね。

【事務局】　私も８年、退職する前にできたよと思って、ほんとうに感激して、涙が出

そうでしたけど。でも、これからが大変だなというところですね。

【鉄矢会長】　　佐藤秀さんなんかも、上手に寄附したいと思っているはずなんだと思うんですね。寄附の受け入れ方法とか。

【事務局】　　運営協議会のお力もかりながらやっていかないといけないかなという。

【鈴木委員（館長）】　　若干補足で、今、事務局から１１月１６日にというお話がございました。そこで、審議会のほうから答申が出る予定ということなんですね。今、諮問を今度かけるという状況だと思います。そこで答申が出ると、１６日の午後５時ごろに、テレビ、新聞等に、文化庁から記者発表するという中に入っている形になりますので、それまでは内密にお願いしたいということでございます。そこから官報で告示をする手続が必要ということで、それは大体３カ月ぐらいかかると言われておりますので、大体２月末か３月ぐらいには正式な形でお披露目できるかなと思っているんですが、ただ、報道発表があった段階で、市長からはそのようにはコメントを出すという。あと、市報にも簡単な記事、答申にのっかりましたという形で出す予定で、今、準備をしています。

【薩摩学芸顧問】　　この機会に、ある程度進められるところは進めないと、またタイミングを逃すと……。

【事務局】　　よろしくお願いします。

次の所蔵展は、中村のほうから話を今、してもらいますけれども、少しお茶にひっかけて。

【中村学芸員】　　３月からまた所蔵展を、年度をまたいでやる予定ですが、次の所蔵展は、中村研一と日常の茶というテーマにできないかなと思っています。中村研一が、この場所でいかにお茶に打ち込んでいたかということを、作品から見ていく、そうした展示にできないかと思っているんですね。ただお茶わんとかを出す、陶器の展示というだけじゃなくて、中村研一にとって、おそらく茶というのはすごく、わりと何でもありなというか自由な形で考えられていたと思います。茶室の中で一つのルールにのっとってやるだけじゃなくて、日記なんかを読んでいても、お芋をもらったので、ふかして、それを食べながらお茶をしたとか、そういうような記述が出てきたりとか。それに、フランスに行って帰ってきたというのが、本人の中でもすごく大きいこととしてあった。フランス流のおいしいコーヒーの入れ方なんていうことをいろいろ雑誌に書いてみたりして、西洋式のお茶を楽しんでもいます。そういった、わりと広いくくりでお茶を捉えて、日常として見ていこうというテーマで考えています。

やはりそうやって考えると、緑地の中でどういうふうに茶室が建っていて、いかにその茶室を自分の自由なお茶の実践の場として、中村研一が完成するまですごく楽しみにしていたのかとか、カフェとして使っている旧宅でも、例えばコーヒーを入れたりだとか、そういう形で自分の暮らしを楽しみながら「茶」をやっていた。そこを作品で見ていけると思うんです。さらに、今、緑地に出かけていくと、緑地の中でお茶室とカフェとして建物が見られますよと。可能であれば、ちょうど文化財のほうにも登録されましたということもあわせて案内をして、そういうふうに緑地の環境と展示の内容をリンクさせていくというような方向で少しやりたいと考えています。

【薩摩学芸顧問】　　コーヒーもお好きだったの。

【中村学芸員】　　そうですね。

【鈴木学芸員】　　そうですね。カフェ文化に染まった男性だと思いますので。

【事務局】　　以前、研一のコーヒーのいれ方をワークショップでやりましたよね、。

【鈴木学芸員】　　そのように聞いています。

【中村学芸員】　　一度いれたコーヒーをもう一回いれ直して。

【事務局】　　そうそう、いれ直して、もう一回沸かすみたいな。おもしろい入れ方でしたよ。ネルでこして。

【薩摩学芸顧問】　　国分寺からここまでは、結構カフェ文化があった。というのは、江戸時代に玉川上水ができて、玉川上水から水を引いてきて、その水をこっちの野川に落としたのですね。このはけのところで。だから、そこには結構水車があって。それで、江戸時代には、この辺から調布にかけてはソバの産地でしたから、ソバをひいていたんだけれども、だんだんここが都会化してきて、ソバがもっと信州のほうに行ったので。だから、戦前にはその水車でコーヒー豆をひいていたんですよ。今でもここに水車があったという場所は幾つかあります。

【山村委員】　　はけの水、水が湧いているわけだし。

【薩摩学芸顧問】　　そう。水もいいし。だから、お茶とかコーヒーや、その辺のこともいろいろとやってみるとおもしろいと思います。

【鉄矢会長】　　今のお話を聞いていると、うちの留学生、留学した学生と、いる学生で、スウェーデンとうち、連携しているので、スウェーデンでフィーカという文化があるんですよ。みんな帰ってくると、みんな化かされたみたいに、フィーカしよう、フィーカしようと言って。でも、それって、多分そうやって、今の時代の西洋というか、そういうふう

に留学した人たちが帰ってきて、向こうのスウェーデン人も、やっぱりそれを日本に紹介しながら、人と会話するとか、いろいろなことをやっているのがあるので、よかったら、ワークショップ企画で、学芸大生によるスウェーデン留学とフィーカ体験とかいう地道な、無料で、場所さえあれば、何かそういう遊びをするような学生は呼べますので。

【中村学芸員】　　ありがとうございます。

【鉄矢会長】　　ということで。どうもありがとうございました。

―― 了 ――